

# 子ども気象学士 天気や災害学ふ

気象台で講義

天気や地震、津波などの自然災害について学ぶ「子ども気象学士」（日本気象学会沖縄支部主催）が3～5日の3日間、那覇市楚辺の沖縄気象台で開かれた。写真。

県内の小学5、6年生16人が保護者と共に参加した。子どもたちは思い思いにメモを取りながら講義を受け、休み時間には親子で空の様子を観察し



たりしていた。

4日は沖縄気象台の職員が講師を務め、大雨や雷、竜巻によって引き起こされる災害や身の安全を守る方法などについて学んだ。糸満市で起きた落雷事故も取り上げ「黒い雲を見掛けたら、雨が降っていないくても建物内に避難したほうが良い」と呼び掛けた。

天久小5年の新垣美海さん(10)は「普段の生活に使えることばかり勉強できてよかった」と話していた。